



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要					
建物名称	リョービ株式会社 試作工場 新築工事	BEE	1	BEEランク	B+
				★★★	

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0 /5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5 /5		がんばろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	1.8 /5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつう 3点以上	がんばろう 3点未満

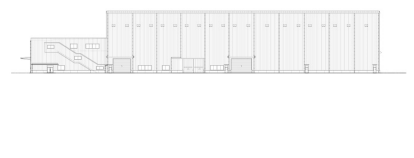
3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点		3.0			
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①外壁・屋根は断熱性・吸音性のよい部材を使用。 ④対応可能長い部材かつ、シンプルで不具合の起こりにくい部材を使用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地内緑地と隣地緑地が連続するような緑地計画がされている。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬全体的に躯体と外装材・内装材は容易に分別が可能で再利用可能性が高い。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮十分な駐車スペースが確保しており、交通渋滞への配慮がされている。</p>	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
				3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
				2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
		Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出	
			3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上	
		LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
			2		⑧	自然エネルギー利用	
			3		⑨	設備システムの高効率化	
			4	4.1	⑩	モニタリング	
				4.2	⑩	運用管理体制	
		LR-2	1	1.1	⑪	節水	
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
			2	2.1	⑫	材料使用量の削減	
				2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
				2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
				2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
			3	3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用	
				3.2	⑬	消火剤	
				3.2.1	⑬	断熱材	
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
		LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮	
			2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点		3.0			
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰工場内の換気設備は余力を考慮して計画した。</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
					2.1.2	⑯	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰	電気設備	
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点		2.5			
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳将来的な工場内機械レイアウトの変更に対応できるような空間の形状・自由さの高い設計。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑周辺建物と調和の取れた外装とした。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり	
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
		Q-3	3	3.1	⑳	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点		1.8			
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地内緑地と隣地緑地が連続するような緑地計画がされている。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮敷地内駐車スペースを十分に確保し、交通渋滞が起きないように配慮。</p>	Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出		
		2		⑶	まちなみ景観への配慮		
		3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	LR-2	2	2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材		
	LR-3	2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	リョービ株式会社 試作工場 新築	階数	地上2F
建設地	静岡県菊川市東横地字小太郎331	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	18 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年7月29日
敷地面積	98,823 m ²	作成者	井上 洋三
建築面積	3,304 m ²	確認日	
延床面積	3,609 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
外壁・屋根は断熱性、吸音性のよい部材を使用、換気能力の高い換気設備の設置など、室内環境を良くする配慮につとめた。また、部材はリサイクル適正の高い部材を選択した。これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の部材を選択。	Q2 サービス性能 将来の機械設備の変更に対応できる空間を設計した。	Q3 室外環境(敷地内) 調和のとれる外観デザインと色調を選択した。
LR1 エネルギー 工場用途で建築物省エネ法の計算対象部分はないが、断熱性能の高い部材、エネルギー効率の良い設備を採用した。	LR2 資源・マテリアル リサイクルの容易な部材を選択肢、躯体分離の容易な構造とした。	LR3 敷地外環境 外壁に吸音性のある部材を使用した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される